

Manna&Babyこどもクリニック通信

福岡市城南区長尾4丁目
6-17
TEL 092-866-8800
http://
mannaandbaby.or.jp/
アイチケット順番とり
http://paa.jp/t/188601/



第17号
平成23年3月

暖かい日が続いています、寒さも緩み一雨毎に春めいてきました。卒園・卒業の季節ですね、子どものあつという間の成長に驚きと喜びを感じられていることと思います。たくましく育った我が子の背中を見て、手が離れていくことに少しさみしく感じますが、一緒に優しく見守っていきましょうね。



ヒブ・肺炎球菌・子宮頸がんワクチンの公費接種



3月1日から3種類のワクチンが公費でできるようになりました。
ただし、福岡市内に住民票がある方のみです。
【無料期間】H23.3.1~H24.3.31



①ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチン

対象は、生後2ヶ月～4歳(5歳の誕生日前日まで)

②子宮頸がんワクチン

[平成23年3月のみ]

対象は、H23.3.1時点で、高校1年生の女子

今回、期間1カ月のみですが、この期間に1回接種すれば、高2年の1年間の間に残り2回無料接種の権利を得ます。

[平成23年4月1日～平成24年3月31日]

対象、H23.4.1時点で、中学1年生～高校1年生の女子

ご希望の方は、予約(電話可)の上、来院をお願いします。来院のない場合は、自動キャンセルになります。ご了承ください。

1. ヒブ(Hib)、肺炎球菌ワクチンについて

両方、子どもの重い細菌感染症(髄膜炎、敗血症、肺炎、中耳炎など)を予防するワクチンです。わが国では年間1,000人ぐらいのお子さまが細菌性髄膜炎を発病していると推定されています。そして、その約60%がヒブ(インフルエンザ菌b型)、約30%は肺炎球菌が原因と考えられています。ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンを接種すれば、わが国の細菌性髄膜炎患者の約90%は予防できると期待されています。海外90カ国・地域で承認されています。

生後なるだけ、早期に済ませるのが安心です。

接種回数は、年齢によって、違います。接種計画は、1回目接種の時にご相談いたします。

推奨は、BCGの前に、同時接種で、3回お済ませになるのがいいです。

2. 子宮頸がんワクチン(サーバリックス)

これは予防できるただ一つのがんのワクチンです。日本では、毎年約1万5千人の女性が子宮頸がんと診断され、そのうち約3千5百人が亡くなっています。子宮頸がんになる年齢のピークは35歳です。ほとんどのがんが原因不明のなか、1983年にドイツがん研究センターのツァハウゼン教授らの研究により子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスのずっと感染し続けることで発病すると解明されました。ウイルスが原因とわかったことでワクチンができました。教授は、功績で08年ノーベル賞を受賞しました。すでに世界100カ国以上で接種が行われています。日本でも2009年10月に接種可能になりました。

このワクチンを性交前の10代前半に接種することにより、子宮頸がんの約70%が予防できると考えられます。30代での接種でも約50%が予防できると推計されます。

初回、1ヶ月後、6ヶ月後の3回、上腕に筋肉注射します。

3回接種によって、子宮頸がんの主要な発がんウイルスである16型、18型HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が予防できるといわれ、この効果は20年以上持続するといわれています。

* * * * * 育児サークル“マナンドコ”の募集お知らせ * * * * *

育児サークル(マナンドコ)をクリニックに立ち上げ、お母様と共に作り上げて子育ての情報発信基地としてお役立ちしていきたいと思っております。

福岡に転動して来られてお友達募集中の方だったり、子育てで同じ悩みを共有し共に学び楽しい子育ての実現をしたい方。又、先輩ママさんで育児のあれこれを経験されて、貴重な知恵をお持ちの方で何か人のお役にたちたいと思っていられる方を募集しています。(又、お忙しいママの方へのアプローチも考えていき情報を繋いでいきますので登録だけでもお気軽にどうぞ)

御存知の方もいらっしゃると思いますが、2月24日から待合室で新しく笑顔のステキな保母さんが子供達と遊んでくれています。子ども達の安心、安全を守りたいと思います。

“マナンドコ”に興味のあられる方は、受付までお声をおかけ下さい。

「生」の大切さ

2月5日『命をいただいて、繋いで、育むこと ～「愛された子どもは素敵な大人になる」みんなで育てましよう～』行橋市にある内田産婦人科医院にて、助産師をされている内田美智子先生の講演会に行ってきました。

改めて「命」の深さを学び、感激し、「食」の大切さを再確認できた講演でした。

内田先生は、著書『ここ～食卓から始まる生教育～』にて、「性を大切にしようと思えば、生が大切になります。性教育は生教育です。生を大切にすれば食が大切になります。生きることは食べること、食べることは生きることです。「性」と「生」と「食」はつながっていたのです。」と述べられています。

今回の講演でまず『生』について改めて向き直ってみることができました。初回に内田先生より「『生』の反対はなんでしょうか?」と質問されました。おそらく多くの人は「死」と思ったことと思います。私も同様でした。

内田先生はこう言いました。「『生』の反対は、『産まれないこと』です。」と...「産まれたものにはか『生』も『死』も存在しないのです。」

心のなかに染み渡った一言でした。私も産婦人科で働いていた時、数々の出産に立ち会ってきました。

喜びと感動の瞬間に立ち会える一方、悲しみの瞬間にも立ち会うこともありました。お母さんのお腹の中に宿っても、産まれてくるのができない子、産まれても数時間しか生きていられない子をみてきました。今存在する「命」という大切なものを、みんなに大切に生きてほしいと思うのです。

内田先生はこう話されました。「助産師として命と向き合う仕事を続けて思うことは、『人はそこにいるだけで価値がある』ということです。人が一人、人として産まれてくるためには、どんなに多くの困難を乗り越えなければならぬことか。産まれてきて、この瞬間に、ここにいることのすごさを知ってほしい。生きていくのに理由はいりません。一人一人が奇跡のような命なんです。」

来院される子どもさんのお母さんは、むろん出産を経験されています。赤ちゃんを産み、数ヶ月のお母さんもいれば、数年、十数年のお母さんもいらっしゃると思います。子育てをしながら、いろんな局面に向き合うと思います。初めて歩いたわが子、小さな手を引いて一緒に歩き遊んだ日々。たくさん笑いのもたらしてくれたことと思います。反面、抱っこしていないと泣き続けるわが子、自我が芽生え反抗的になる時期「どうしてだろう」と悩むときもあることと思います。そんなときはどうかわが子がここに誕生した時のことを思い出してほしいです。「産まれてきてくれてありがとう!」そう思われたのではないかと思います。奇跡の命です。今ここにいることをいつまでも大切に思ってください。

子どもたちに伝えたい一言「そこにいていいんだよ」

お母さんに伝えたい一言「乳児には肌を離さないで、幼児には手を離さないで、小学生には目を離さないで、思春期の子どもには心を離さないで」内田先生の著書『ここ』より

「食」の大切さ...来月号で紹介させていただきます

by: M・U

